

大学/各学科の教育目標とカリキュラムの特色

キャリア形成学部 キャリア形成学科

1 アドミッションポリシー

本学科では、女性としての生き方・働き方を確立し、多様な業界・業種で活躍できる就業力を持つ女性を育成します。そのため、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる基礎的な知識・技能及び関心・意欲を備えた女性を求めています。このような入学者を適正に選抜するために、教科（国語、英語）の試験、小論文、面接など多様な選抜方法を実施します。

1. 高等学校等までの「国語」、「英語」等の学習を通じて、聞く、話す、読む、書くという基礎的な知識・技能を身につけている。
2. 身近な社会問題について、高等学校等までの学習で得た知識を活用して自分の考えを表現できる。
3. 女性の生き方、働き方に関する諸問題に関心がある。
4. 日本語、英語、情報などの技能を修得して、コミュニケーション力を高めることに関心と意欲がある。
5. プロジェクト等の実践的な学びを通して、思考力、判断力、問題解決力を磨き、思いやりを持って他者と協働できる人として成長したいとの意欲がある。
6. ビジネス・リテラシーと組織マネジメントの基礎を修得して、ビジネスや公共の世界で活躍することに意欲がある。

2 カリキュラムポリシー

本学科の人材養成目標及びディプロマポリシーの達成のため、以下の方針に基づきカリキュラムを編成、実施する。

2.1 カリキュラムの編成方針

以下の4つに分けてカリキュラムを編成する。

(1) 建学の精神教育

- ・現代社会に生きる女性として思いやりの精神をもって、社会とかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、仏教の人間観及び京都光華の学びを置く。

(2) 基礎・教養教育

- ・健全な市民性の涵養や日本文化への理解をはじめ、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目及び複数領域にわたり選択科目を置く。
- ・情報リテラシー、日本語活用力、英語による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ必修科目を置く。

(3) 専門基礎教育

- ・基礎・教養教育で実施する情報リテラシー、日本語及び英語の能力を高める科目を置き、少人数による演習で授業を行う。
- ・知性と感性を磨き、女性が生涯を通して働き続ける力として成長させるために、「女性エンパワーメント」の科目群を置く。
- ・「ビジネス」「サービス」「ソーシャル」の分野の基礎知識を習得するために、選択必修科目を置く。
- ・ビジネスや地域の課題を協働して解決して新たな価値を生み出す力を身につけるために、プロジェクトに関する必修科目を置く。

(4) 専門教育

- ・「ビジネス」「サービス」「ソーシャル」の分野の専門知識を習得するために各分野で選択科目を置き、専門知識を社会で活用して実践力を身につけるために専門実習（長期インターンシップ）の選択科目を置く。
- ・外国語の運用能力向上や異文化理解を深めるために、 Semester 留学、長期留学に関する科目を置く。
- ・現代社会の諸問題とその解決方法を多角的に見出し、情報を発信できる力を身につけるために、「ゼミ」の科目群を置く。
- ・自己のキャリア形成につながる就業力を高めるために、資格取得に関する選択科目として「専門関連」の科目群を置く。

2.2 カリキュラムの実施方針

以下の点に留意しつつ、カリキュラムを実施する。

- ・問題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるために、PBL（Project-Based Learning／Problem-Based Learning）やアクティブ・ラーニングの授業方法を積極的に取り入れる。
- ・クラスアドバイザーとしての役割を担う各学年のゼミの担当教員は、定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認し、適切な履修指導を行う。
- ・自主的、自律的な学習に欠かせないセルフマネジメント力を高めるため予習・復習を課し、学生の状況に応じて補講など授業外学習支援を行う。
- ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多角的な評価を行う。

3 ディプロマポリシー

女性としての生き方・働き方を確立し、多様な業界・業種で活躍できる就業力を持つ女性として、以下の力を身につけ、学則に定める卒業要件を満たした者に学位を授与する。

(1) 知識・理解

- ①女性の多様な生き方・働き方と就労に関する諸問題を理解している。
- ②社会、文化、人間に関する幅広い知識に基づき、多様性の価値を理解することができる。
- ③企業や公共組織の経営資源と、それらのマネジメントに関する基礎的な知識と技法を理解している。

(2) 汎用的能力

- ①情報リテラシーを身につけ、日本語及び外国語を用いて的確に読み書きし、他者の話を聞き、自らの考えを他者に効果的に伝えることができる。
- ②現代社会の諸問題について論理的に考え、解決方法を見出すことができる。
- ③プロジェクト・マネジメントの技法を活用できる。

(3) 態度・志向性

- ①建学の精神「真実心」を理解し、他者と共生しながら自立することができる。
- ②自己のキャリア形成の実現のため、生涯にわたって学び続ける力を身につけている。
- ③セルフマネジメント力（自己管理能力）及びチームマネジメント力（チームで協働する力）を身につけている。

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- ①ビジネスや地域の課題を解決するための実践力及び新たな価値を生み出す創造的思考力を身につけている。

健康科学部 健康栄養学科 管理栄養士専攻

1 アドミッションポリシー

本専攻では、生活習慣病の予防やチーム医療に関わる栄養管理について、知識・技術の資質向上を目指し、より実践的な管理栄養士を育成します。そのため、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる基礎的な知識・技能及び関心・意欲を備えた女性を求めています。このような入学者を適正に選抜するために、教科（国語、英語、生物、化学）の試験、小論文、面接など多様な選抜方法を実施します。

1. 高等学校等までの学習を通じて、コミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている。
2. 高等学校等までの履修内容のうち、科学的思考力の基礎として「理科（生物、化学）」を身につけている。
3. 人の健康の保持や増進に関する諸問題に関心がある。
4. 医療・福祉現場やその他の施設における栄養管理・指導、チーム医療の実践等に高い関心がある。
5. 臨地実習等の実践的な学びを通して、思考力、判断力、問題解決力を磨き、思いやりをもって、他者と協働できる人として成長したいとの意欲がある。
6. 栄養士及び管理栄養士が社会に果たす使命や役割について理解し、その仕事を通じ社会に貢献しようという熱意と意欲がある。

2 カリキュラムポリシー

本専攻の人材養成目標及びディプロマポリシーの達成のため、以下の方針に基づきカリキュラムを編成、実施する。

2.1 カリキュラムの編成方針

以下の4つに分けてカリキュラムを編成する。

(1) 建学の精神教育

- ・現代社会に生きる女性として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、仏教の人間観及び京都光華の学びを置く。

(2) 基礎・教養教育

- ・健全な市民性の涵養や日本文化への理解をはじめ、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目及び複数領域にわたり選択科目を置く。
- ・英語、情報リテラシー、日本語活用力による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ必修・選択科目を置き、少人数による演習で授業を行う。

(3) 専門基礎教育

- ・人間や生活についての理解を深めるとともに、社会や環境と人間の健康の関わりについて理解するために、公衆衛生学や健康評価に関する科目を置く。

- ・人体について体系的に理解した上で、主要疾患の成因、病態、診断、治療等について理解を深めるために、人体の構造と生理、生化学、臨床検査・病理に関する講義科目とともに実験・実習科目を置く。
- ・食品の各種成分を理解し、食品の加工・調理過程を通して栄養面や安全面への影響や評価について理解するために、食品学、調理学、食品衛生学に関する講義科目とともに実験・実習科目を置く。

(4) 専門教育

- ・栄養の意義ならびに、身体状況や栄養状況に応じた栄養管理の考え方を理解するために、「基礎栄養学」ならびに、「応用栄養学」の科目群を置く。
- ・健康・栄養状態・食行動・食環境に関する情報の収集と分析、それらを総合的に評価・判定し、栄養教育プログラムを作成する能力を修得するために、「栄養教育論」の科目群を置く。
- ・傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うための栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解するために、「臨床栄養学」の科目群を置く。
- ・地域や職域の健康・栄養問題とそれを取り巻く諸要因を分析し、さまざまな健康・栄養状態の者に対する適切な栄養関連サービスのあり方について理解を深めるために、「公衆栄養学」の科目群を置く。
- ・給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経済面全般についてマネジメントを行う能力を修得するために、「給食経営管理論」の科目群を置く。
- ・各専門分野に関わる知識についてさらに理解を深め、実践活動の場での課題発見と解決を通して管理栄養士に必要とされる知識と技能の統合を図るために、「総合演習」、「臨地実習」の科目群ならびに、「卒業研究」を置く。
- ・食生活や運動に関わる資格取得に関する選択科目として「関連科目」の科目群を置く。

2.2 カリキュラムの実施方針

以下の点に留意しつつ、カリキュラムを実施する。

- ・各専門分野の科目群においては、栄養士・管理栄養士に必要とされる知識と技能について理解するために、講義とそれに関わる実験・実習を学ぶ。
- ・課題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるために、PBL (Problem-based learning) やアクティブ・ラーニングの授業方法を取り入れる。
- ・実践活動の場での課題発見と解決を通して知識と技術の統合を図るために、学外実習を行う。
- ・自主的、自律的な学習に欠かせないセルフマネジメント力を高めるために、予習・復習を奨励する。また、資格取得に向けた課題の提出、対策授業などの学習支援を行う。
- ・クラスアドバイザーは定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認しつつ、適切な履修指導を行う。
- ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多角的な評価を行う。

3 ディプロマポリシー

管理栄養士・栄養士としての力を身につけ、学則に定める卒業要件を満たした者に学位を授与する。

(1) 知識・理解

- ①管理栄養士に必要な知識を理解している。
- ②管理栄養士に必要とされる技術と指導力を身につけている。

(2) 汎用的能力

- ①管理栄養士として、個人および地域とのコミュニケーションを円滑に進める能力、指導者としてのリーダーシップを身につけている。
- ②情報を収集、分析し、論理的な思考により、課題にあたることができる。

(3) 態度・志向性

- ①建学の精神「真実心」を理解し、他者と共生しながら自立することができる。
- ②管理栄養士の専門性を深めるため、生涯にわたって学び続ける自己学習力を身につけている。

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- ①管理栄養士として、予防医療学をもとにした栄養の指導を通して、健康の維持・増進のために地域社会に貢献できる力を身につけている。
- ②健康科学に関わる幅広い知識や技能を学び、創造的な思考力を身につけている。

健康科学部 健康栄養学科 健康スポーツ栄養専攻

1 アドミッションポリシー

本専攻では、生涯を通じた健康づくりのためのスポーツと栄養の指導者として、知識・技術の資質向上を目指し、より実践的なスポーツ指導者・栄養士を育成します。そのため、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる基礎的な知識・技能及び関心・意欲を備えた女性を求めています。このような入学者を適正に選抜するために、教科（国語、英語、生物、化学）の試験、小論文、面接など多様な選抜方法を実施します。

1. 高等学校等までの学習を通じて、コミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている。
2. 高等学校等までの履修内容のうち、科学的思考力の基礎として「理科（生物、化学）」を身につけている。
3. 人の健康の保持や増進に関する諸問題に関心がある。
4. 運動指導現場において、生涯を通じたスポーツの実践指導や栄養指導、食育に高い関心がある。
5. 臨地実習等の実践的な学びを通して、思考力、判断力、問題解決力を磨き、思いやりをもって、他者と協働できる人として成長したいとの意欲がある。
6. 栄養士及び健康運動指導士が社会に果たす使命や役割について理解し、その仕事を通じて、健康づくりの面で、社会に貢献しようという熱意と意欲がある。

2 カリキュラムポリシー

本専攻の人材養成目標及びディプロマポリシーの達成のため、以下の方針に基づきカリキュラムを編成、実施する。

2.1 カリキュラムの編成方針

以下の4つに分けてカリキュラムを編成する。

(1) 建学の精神教育

- ・現代社会に生きる女性として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、仏教の人間観及び京都光華の学びを置く。

(2) 基礎・教養教育

- ・健全な市民性の涵養や日本文化への理解をはじめ、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目及び複数領域にわたり選択科目を置く。
- ・英語、情報リテラシー、日本語活用力による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ講義科目を置き、少人数による演習で授業を行う。

(3) 専門基礎教育

- ・社会や環境と健康の関わりについて理解するため、公衆衛生や健康管理に関する科目を置く。
- ・人体について体系的に理解した上で、運動や環境に対する人体の反応や適応について理解を深めるため、人体の構造と生理、生化学、運動生理学に関する講義科目とともに実験・実習科目を置く。

- ・食品の特性を理解するとともに、衛生管理の方法について理解するために、食品学・食品衛生学に関する講義科目とともに実験・実習科目を置く。
- ・運動やスポーツに関する基礎的知識や健康との関わりについて理解するために、「スポーツと健康」の科目群を置く。

(4) 専門教育

- ・栄養素の代謝と生理的意義を理解するとともに、身体状況や栄養状況に応じた栄養管理と各種疾患における基本的な食事療法を理解するために、「栄養と健康」の科目群を置く。
- ・個人・集団および地域レベルでの栄養指導の役割や栄養に関する各種統計について理解するために、「栄養の指導」の科目群を置く。
- ・給食業務を行うために必要な食事計画・調理を含めた給食サービスに関する技能を修得するために、「給食の運営」の科目群を置く。
- ・健康を維持・増進するための運動指導の方法や競技力を高めるためのスポーツ指導の方法の基本を学び、プログラムの作成・実施・評価に関する技能を修得するために、「運動・スポーツ指導」の科目群を置く。
- ・スポーツと栄養との関わりについて学び、運動実施者や競技者に対する栄養管理について理解を深めるために、「スポーツと栄養」の科目群を置く。
- ・各専門分野に関わる知識の理解を深め、発展を図るために、「卒業研究」を置く。
- ・食生活や運動・スポーツに関わる資格取得に関する選択科目として「関連科目」の科目群を置く。

2.2 カリキュラムの実施方針

以下の点に留意しつつ、カリキュラムを実施する。

- ・各専門分野の科目群においては、栄養士および運動・スポーツ指導に必要とされる知識と技術について理解するために、講義とそれに関わる実験・実習を学ぶ。
- ・課題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるために、PBL (Problem-based learning) やアクティブ・ラーニングの授業方法を取り入れる。
- ・実践活動の場での課題発見と解決を通して知識と技術の統合を図るために、学外実習を行う。
- ・自主的、自律的な学習に欠かせないセルフマネジメント力を高めるために、予習・復習を奨励する。また、資格取得に向けた課題の提出、対策授業などの学習支援を行う。
- ・クラスアドバイザーは定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認しつつ、適切な履修指導を行う。
- ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多面的な評価を行う。

3 ディプロマポリシー

スポーツの指導力、栄養士としての力を身につけ、学則に定める卒業要件を満たした者に学位を授与する。

(1) 知識・理解

- ①健康運動実践指導者・栄養士に必要な知識を理解している。
- ②スポーツと栄養の指導のための技術と指導力を身につけている。

(2) 汎用的能力

- ①スポーツと栄養の指導者としてコミュニケーションを円滑に進める能力、指導者としてのリーダーシップを身につけている。
- ②情報を収集、分析し、論理的な思考により、課題にあたることができる。

(3) 態度・志向性

- ①建学の精神「真実心」を理解し、他者と共生しながら自立することができる。
- ②健康運動実践指導者・栄養士の専門性を深めるため、生涯にわたって学び続ける自己学習力を身につけている。

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- ①スポーツと栄養の指導を通して、健康の維持・増進のために地域社会に貢献できる力を身につけている。
- ②健康科学に関わる幅広い知識や技能を学び、創造的な思考力を身につけている。

健康科学部 看護学科

1 アドミッションポリシー

本学科では、仏教看護の理念を背景に、豊かな人間性と高度な看護学の知識・技術及び倫理観を持つ、自立した資質の高い看護専門職として看護師・保健師・養護教諭を育成します。そのため、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる基礎的な知識・技能及び関心・意欲を備えた女性を求めています。このような入学者を適正に選抜するために、教科（国語、英語、生物、化学、数学）の試験、小論文、面接など多様な選抜方法を実施します。

1. 高等学校等までの「国語」、「英語」等の学習を通じて、聞く、話す、読む、書くという基礎的知識・技能を身につけている。
2. 高等学校等までの履修内容のうち、論理的思考力の基礎として「数学、理科（生物、化学）」を身につけている。
3. 健康に関する国内外の動きに関心を持ち、新しい知識を得、自分で考え行動することができる。
4. 他者に共感し尊重する精神と態度を持ち、自らも自尊心を持ち、求められる課題や学習に主体的、自律的に取り組むことができる。
5. 演習や実習等の実践的な学びを通して思考力、判断力、問題解決力を高め、他者と協働して物事に取り組み成長したいという意欲がある。
6. 将来、保健・医療・福祉分野で看護師として活躍し、社会に貢献する意欲がある。

2 カリキュラムポリシー

本学科の人材養成目標及びディプロマポリシーの達成のため、以下の方針に基づきカリキュラムを編成、実施する。

2.1 カリキュラムの編成方針

以下の4つに分けてカリキュラムを編成する。

(1) 建学の精神教育

- ・現代社会に生きる女性として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身に付け、同時に、豊かな感性と高い倫理性を備え、社会に寄与する看護職の育成を目指し、仏教の人間観および京都光華の学びを置く。

(2) 基礎・教養教育

- ・健全な市民性の涵養や日本文化への理解をはじめ、幅広い知識と教養を身に付けるために、必修科目および複数領域にわたり選択科目を置く。
- ・情報リテラシー、日本語活用力、英語による異文化理解、基礎的なコミュニケーション力を身に付け高めるために、それぞれ必修・選択科目を置き、少人数による演習で授業を行う。

(3) 専門基礎教育

- ・看護における人間の多様性と統合されて生きる人間の理解を目的とし、「人間のからだところろ」、「人間と社会」に区分した必修科目、選択科目を置く。
- ・人の生涯における健康への支援、病気の予防、健康障害とその回復に対する看護、終末期のケアに必要な知識・技術を習得するための専門基礎科目を置く。

(4) 専門教育

- ・「看護の基盤」、「看護の展開」、「看護の実践」、「看護の発展」に区分し、看護に関する学際的知識と看護実践の基盤となる看護理論および看護技術に関する必修、選択科目を置く。
- ・「看護の基盤」では、看護学導入となる科目、看護実践の基本的知識・技術を学習するなど、基礎看護学領域の講義、演習科目を置く。
- ・「看護の展開」では、母性、小児、成人、老年、精神、在宅看護学を中心に、各専門領域の看護援助のコアになる講義、演習科目を置く。
- ・「看護の実践」では、実践的体験学習を通して健康上のニーズに適切に対応できる基礎的能力を習得するために基礎および6領域、統合的学習としての臨地実習を置く。
- ・「看護の発展」では、看護学を学習した上でさらに看護の専門性の幅を広げるためのトピック的科目を置く。
- ・保健師資格取得コースでは、看護師の資格に加え、選抜された学生に対して、地域の人々の健康の保持・増進のための保健活動を目指す専門職に必要な必修・選択科目を置く。
- ・助産師資格取得コース^{*}では、看護師の資格に加え、選抜された学生に対して、新しい生命誕生への支援を核とし、女性の生涯にわたる健康づくりへの支援活動を目指す専門職に必要な必修・選択科目を置く。
- ・養護教諭一種免許の取得については、希望する学生に対して、養護教諭（一種）の取得に必要な教職課程の科目を置く。

※平成30年度より、助産学専攻科を設置することから、助産師資格取得コースは、平成29年度入学生までを対象とする。

2.2 カリキュラムの実施方針

以下の点に留意しつつ、カリキュラムを実施する。

- ・問題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるためにPBL（Problem-based learning）やAL（Active learning）の授業方法を積極的に取り入れる。
- ・自主的、自律的な学習に欠かせないセルフマネジメント力を高める予習・復習を課し、学生の状況に応じて補講や補習など授業外学習支援を行う。
- ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末定期試験にとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度、習熟度の確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多面的な評価を行う。
- ・臨地実習に関しては、臨地実習に連動する講義や演習の工夫、実習前・中・後の指導の向上、実習施設との連携・協力体制の強化により、効果的な学習を図る。
- ・クラスアドバイザーとしての役割を担う各学年のゼミ担当教員は、定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望などを確認し、適切な履修指導を行う。

3 ディプロマポリシー

以下の力を身につけ、学則に定める卒業要件を満たした者に学位を授与する。

看護の対象となる人々の尊厳と権利を守り、あらゆる健康レベルに応じた健康の保持、増進及び回復、死を迎える人々に対するヘルスケアサービスの提供者として高い倫理性、責任感を有する専門職としての基礎的能力を習得している。

(1) 知識・理解

- ①看護の対象である人間が身体的、精神的、社会的に統合された存在であることを理解し、各ライフサイクルの発達の特徴や発達課題が理解できる。
- ②健康があらゆる健康レベルの連続性にあることを踏まえ、健康に影響を与える環境や要因について説明できる。
- ③あらゆる健康レベルにある人々に対する看護の役割、機能について理解できる。

(2) 汎用的能力

- ①対象との援助関係を中心としたコミュニケーションを成立、維持させる能力を身につけている。
- ②看護実践に必要な情報処理技術とリテラシーを習得している。
- ③対象の健康上の問題をクリティカルに分析、判断できる論理的思考力、エビデンスに基づいた看護実践力を主軸とした問題解決の方法論を習得している。
- ④チーム医療や地域連携ケアに必要なコーディネートおよびマネジメント力を身につけている。

(3) 態度・志向性

- ①対象者の尊厳を守り、尊重した態度で接することができる。
- ②看護師として、高度化・専門化する将来像を見据えながら、自らの学習課題を設定し、それに向けた学習への取り組みが主体的にできる。

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- ①看護職として健康課題についての国内外の動向に関心をもち、医療や社会の発展に貢献することができる。

健康科学部 心理学科

1 アドミッションポリシー

本学科では、心理学の知見を生かし、自己を確立して社会で活躍できる女性を育成します。そのため、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる基礎的な知識・技能及び関心・意欲を備えた女性を求めています。このような入学者を適正に選抜するために、教科（国語、英語）の試験、小論文、面接など多様な選抜方法を実施します。

1. 高等学校等までの学習を通じて、本学科の履修に必要な「国語」、「英語」の力及び適切なコミュニケーション能力を身につけている。
2. 建学の精神である「思いやりの心」を持ち、他者とよりよく共生しようとする意欲がある。
3. 人の心と行動について強い関心と探究心を持ち、人の心理における普遍性と多様性を理解しようとする意欲がある。
4. 心理学的知識やスキル、及びこれに付随する資格を通じて、将来、医療・教育・福祉・保育・産業など社会で自分らしく活躍したいとの意欲がある。

2 カリキュラムポリシー

本学科の人材養成目標及びディプロマポリシーの達成のため、以下の方針に基づきカリキュラムを編成、実施する。

2.1 カリキュラムの編成方針

以下の4つに分けてカリキュラムを編成する。

(1) 建学の精神教育

- ・現代社会に生きる女性として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、仏教の人間観及び京都光華の学びを置く。

(2) 基礎・教養教育

- ・健全な市民性の涵養や日本文化への理解をはじめ、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目及び複数領域にわたり選択科目を置く。
- ・英語、情報リテラシー、日本語活用力による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ必修・選択科目を置く。

(3) 専門基礎教育

- ・心理学への関心を喚起し、2年次以降の学習への導入に関する科目を配置する。

(4) 専門教育

- ・「専門応用」、「専門発展」、「心理学演習」に区分する。
- ・「専門応用」では、上述の心理学科のDPの実現に向け、専門化された心理学理論に関する講義や、初歩的な実習を織り交ぜた演習科目を設定する。
- ・「専門発展」では、DPをより高度に発展した次元で達成するための講義科目、演習科目、実習

科目を設定する。

- ・「心理学演習」では、専門演習と応用演習を置く。専門演習は本学科の DP を学生一人一人の将来像に相応しい形で実現できるよう設定する。また、応用演習は心理学に関する英語および専門知識をより高度に理解できるよう設定する。
- ・上記系とは別に資格取得を可能とするため自由科目を設定する。
- ・なお、心理学科 DP の習得に向けた各専門科目の関連性、体系性を明確にして学生に提示し、上記のように編成されたカリキュラムを実施する。具体的には、2年次以降の「専門応用」「専門発展」の科目は、DP を達成するため、“基礎心理学”、“データ科学”、“人と現代社会”、“人間関係とコミュニケーション”、“心理援助”の5つに細分化され、その体系性については別途フローチャートに記載する。

2.2 カリキュラムの実施方針

以下の点に留意しつつ、カリキュラムを実施する。

- ・複雑な現代社会における人の心の多様性と、人と人との相互のプロセスについての自己参与的な理解を促進する目的で、1年次から4年次まで体系的に PBL 等のアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた授業を行なう。
- ・一人ひとりを大切にする教育を実践するため、クラスアドバイザーとしての役割を担う各学年のゼミ担当教員は、定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認し、適切な修学指導を行う。
- ・自主的、自律的な学習に欠かせないセルフマネジメント力を高めるため、予習・復習を課し、学生の状況に応じて補講など授業外学習支援を行う。
- ・ディプロマポリシーの能力形成を促すため以下の精緻な評価を行う。

- ①学期末テストのみならずレポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生に適切にフィードバックするとともに、多面的な評価を行う。
- ②保育士・保育心理士・精神保健福祉士など資格取得を目指す学生については、その基盤となる科目修得や基礎学力の水準を確認したうえで、面接などにより適性判断を行う。
- ③学生の教育評価は、4年間の学修成果は卒業研究・卒業論文で行い、個々の学生の教育評価は、GPA により判断する。

3 ディプロマポリシー

心理学の知見を生かし、自己を確立して社会で活躍できる女性として、以下の力を身につけ、学則に定める卒業要件を満たした者に学位を授与する。

(1) 知識・理解

- ①心について科学的、実証的に検討する方法を身につけ、人の心理と行動に関する法則性を客観的に理解する。
- ②個人差・文化差といった多様性および人と環境との相互作用について心理学的に理解する。

(2) 汎用的能力

- ①心理に関する多様な情報を収集・分析し、問題を発見・解決する能力を身につける。
- ②コミュニケーション・人間関係能力の習得。コミュニケーション力を高め、社会の中での実践的な関係形成能力（リエゾン力）を身につける。

(3) 態度・志向性

- ①建学の精神である「真実心」を理解し、他者に共感して、社会に貢献できる。
- ②心理学の知識を実社会に援用し、協調・協働してチームワークを構築したり、他者を動員して目標の実現をはかるリーダーシップを適切に発揮したりできる。
- ③自分の目標を明確に持ち、意欲的に行動するとともに、生涯を通して自らを高めることができる。

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- ①心理学の学習を通して獲得した知識、技能、態度等を総合的に活用し、自らのキャリアに活かす力を養う。
- ②心理学に関する高度な知識と技能を活かして、他の専門職と連携をはかり、対人援助の専門家として社会貢献する能力を身につける。

健康科学部 医療福祉学科 社会福祉専攻

1 アドミッションポリシー

本専攻では、仏教精神に基づいた深い人間理解と人間尊重の価値観を基盤とし、社会福祉専門職に必要な知識と技術を学び、社会貢献ができる女性を育成します。そのため、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる基礎的な知識・技能及び関心・意欲を備えた女性を求めています。このような入学者を適正に選抜するために、教科（国語、英語）の試験、小論文、面接など多様な選抜方法を実施します。

1. 高等学校等までの「国語」、「英語」等の学習を通じて、本専攻の履修に必要で適切なコミュニケーション能力を身につけている。
2. 建学の精神である「思いやりの心」を持ち、社会的支援が必要な人々を理解することができる。
3. 身近な生活問題からグローバルな社会問題にわたって、関心がある。
4. 社会福祉専門職としての能力を修得し、問題解決や社会貢献に主体的に取り組みたいとの意欲がある。

2 カリキュラムポリシー

本専攻の人材養成目標及びディプロマポリシー達成のため、以下の方針に基づきカリキュラムを編成、実施する。

2.1 カリキュラムの編成方針

以下の4つに分けてカリキュラムを編成する。

(1) 建学の精神教育

- ・現代社会に生きる女性として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、仏教の人間観及び京都光華の学びを置く。

(2) 基礎・教養教育

- ・健全な市民性の涵養や日本文化への理解をはじめ、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目及び複数領域にわたり選択科目を置く。
- ・仏教精神に基づいた社会福祉専門職の養成を行うため、本学の校訓である「真実心」への理解や社会生活者としての倫理観および人間理解などを学ぶ科目群を置く。

(3) 専門基礎教育

- ・専門基礎科目では、社会人としての確かな社会人基礎能力を有する社会福祉専門職を目指すために「人間と社会」の科目群を置く。
- ・現代社会において医療と福祉の連携の現状、今後の展開について習得するために「医療と福祉」の科目群を置く。
- ・医療、健康、看護、福祉の専門職性について学びを深めるため、健康科学部共通、医療福祉学科共通の科目群を置く。

(4) 専門教育

- ・現代社会の多様な事象に対して社会福祉的視点から相談援助が行える知識・技術の習得を目指し、「社会福祉の基礎、展開」の科目群を置く。
- ・現代社会の社会問題・生活問題に焦点をあて、個人や家族への支援活動を中心とするミクロレベルから、地域を対象とするメゾレベル、制度や政策を考察するマクロレベルに至る多様なレベルから理論的、実践的な探求を行い学びを深める「社会福祉の応用」の科目群を置く。
- ・社会福祉士、精神保健福祉士、保育士といった対人援助職として求められる専門性を習得することを目的として「社会福祉の発展」の科目群を置く。

2.2 カリキュラムの実施方針

社会福祉専攻の教育課程は、以下の方針をもって実施する。

- ・問題発見・解決力やチームマネジメントを高めるために PBL (Problem-based learning) や AI (Active learning) の授業方法を取り入れる。
- ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度、習熟度を確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多角的な評価を行う。
- ・クラスアドバイザー及び同様の役割を担うゼミ担当教員は、定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認し、適切な履修指導を行う。要支援学生については、関係部署と連携し、修学のための適切な対応を行う。
- ・自主的、自立的な学習に欠かせないセルフマネジメント力を高めるために、予習・復習を奨励する。また資格取得に向けた課題の提出、対策授業等の学習支援を行う。
- ・専門分野の科目群については、知識と技術の理解と習得に向けて講義と演習、実習を関連付けながら学ぶ。社会福祉現場実習では、実習施設との連携・協力体制の強化により、効果的な学習を図る。

3 ディプロマポリシー

仏教精神と本学の建学の精神である「真実心=思いやりの心」に基づいた他者と共生できる精神性を養うとともに、グローバルな視野に立ちつつ、地域における社会福祉サービスの提供者としての専門性と、社会福祉の価値と倫理を修得した福祉人材として、以下の力を身につけた人に対して学位を授与する。

(1) 知識・理解

- ①社会福祉専門職として、社会動向の把握に努め、支援を必要とする人たちの多様性を理解し、地域における保健・医療・福祉の連携の重要性を理解し、良好な協働関係を構築することができる。

(2) 汎用的能力

- ①社会福祉専門職として、支援を必要とする人たちとその社会背景を分析し、女性の専門職としての強みを活かし、個別・集団の問題解決を論理的に思考することができる。
- ②社会福祉専門職として必要な知識・技術を活用し、社会福祉を必要とする人たちを主体とした社会福祉実践方法を選択し、計画・実行することができる。

(3) 態度・志向性

- ① 仏教精神に基づく社会福祉専門職としての自覚を持ち、社会や他者に積極的に貢献することができる。
- ② 社会人として必要なコミュニケーション能力や創造的思考力、問題発見解決力などの基礎的能力を養い、主体的に取り組むことができる。

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- ① 社会福祉専門性を活かし地域における保健・医療・福祉の連携のもと、地域社会に貢献できる力を身につけている。
- ② 女性としての視点を活かし、地域社会の問題に対して創造的思考力を発揮させ解決を図ることができる。

健康科学部 医療福祉学科 言語聴覚専攻

1 アドミッションポリシー

本専攻では、仏教精神に基づいた深い人間理解と人間尊重の価値観を基盤とし、言語聴覚士に必要な知識と技術を学び、社会貢献ができる女性を育成します。そのため、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる基礎的な知識・技能及び関心・意欲を備えた女性を求めています。このような入学者を適正に選抜するために、教科（国語、英語）の試験、小論文、面接など多様な選抜方法を実施します。

1. 高等学校等までの「国語」、「英語」等の学習を通じて、言語聴覚士を志す基盤として必要なコミュニケーション能力と姿勢を備えている。
2. 建学の精神である「思いやりの心」を持ち、障害児・者を理解し、寄り添うことができる。
3. 言語聴覚士として必要な知識・技術の習得に、熱心に根気よく取り組み、言語聴覚障害の幅広い課題について、関心がある。
4. 言語聴覚士としての能力を習得し、言語・聴覚・嚥下等に障がいのある人々の機能の回復・獲得をはかり、個々の状態に応じたコミュニケーション能力の向上と社会参加を支援しようとする意欲がある。

2 カリキュラムポリシー

本専攻の人材養成目標及びディプロマポリシー達成のため、以下の方針に基づきカリキュラムを編成、実施する。

2.1 カリキュラムの編成方針

以下の4つに分けてカリキュラムを編成する。

(1) 建学の精神教育

- ・現代社会に生きる女性として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、仏教の人間観及び京都光華の学びを置く。

(2) 基礎・教養教育

- ・健全な市民性の涵養や日本文化への理解をはじめ、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目及び複数領域にわたり選択科目を置く。
- ・仏教精神に基づいた社会福祉専門職の養成を行うため、本学の校訓である「真実心」への理解や社会生活者としての倫理観および人間理解などを学ぶ科目群を置く。

(3) 専門基礎教育

- ・この科目区分は、「人間と社会」、「医療と福祉」に分かれる。言語聴覚専門分野として習得し、人間をトータルに理解するための科目が、1年生次から3年次で修得できるために、必要な科目群を置く。
- ・「人間と社会」では、人間として心身ともに健康な暮らしについて、個人および集団の視点を踏まえて、統合的に人間を捉えられることを目指すに必要な科目群を置く。
- ・「医療と社会」では、社会保障制度や法規を学び、医療が社会とどのように繋がっているのかを

学ぶことを目指すために必要な科目群を置く。

(4) 専門教育

- ・この科目区分は、「言語聴覚療法の基礎」、「言語聴覚療法の展開」、「言語聴覚療法の応用」、および「言語聴覚療法の発展」に分かれる。
- ・「言語聴覚療法の基礎」では、臨床基礎医学、臨床医学総論、リハビリテーション概論・医学、音声・言語・聴覚医学（神経系の構造、機能及び病態を含む）、言語発達学、生涯発達心理学、認知・学習心理学、臨床心理学、言語聴覚障害学概論が配置され、臨床医学と言語聴覚障害学の基礎を学ぶことを目指すために必要な科目群を置く。
- ・「言語聴覚療法の展開」では、基礎知識の上にさらにさまざまな分野の専門的知識を学ぶため、臨床医学、臨床歯科医学・口腔外科学や心理学測定法、音響学、音声学、言語学、失語症学、高次脳機能障害学、言語発達障害学、構音障害学、摂食嚥下障害学、聴覚障害学を置く。
- ・「言語聴覚療法の応用」では、基礎と展開で学んだ知識を演習で実際に使うことを学ぶことを目指している。従って配置される科目は、言語聴覚障害診断学演習、失語症学演習、高次脳機能障害学演習、言語発達障害学演習、構音障害学演習、摂食嚥下障害学演習、聴覚障害学演習、画像診断学演習、言語聴覚障害学総合演習を置き、すべての科目が演習の形態で行われる。
- ・「言語聴覚障害学の発展」では、言語聴覚士として社会に出ていくために必要な知識と力を獲得するために、臨床実習（評価実習・総合実習）、各種特論、卒業研究、専門ゼミを置く。

2.2 カリキュラムの実施方針

以下の点に留意しつつ、カリキュラムを実施する。

- ・言語聴覚士国家試験受験資格を取得するための指定科目を配置することによって、専門職として活躍できる人材育成のためのカリキュラムとする。
- ・総合病院やリハビリテーション病院などの医療分野や介護老人保健施設や訪問リハビリテーション事業所などの保健分野、特別養護老人ホームや障害児施設などの福祉分野、さらに療育施設や特別支援学校や学級などの教育分野などと多岐にわたる領域において、実践力・応用力の養成に努める。
- ・礼儀をわきまえ、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を持った社会人基礎力の養成に努め、その上で、言語聴覚の分野で活躍できる資格・スキルを有した優秀な人材を養成する。

3 ディプロマポリシー

以下の力を身につけ、学則に定める卒業要件を満たした者に学位を授与する。

言語聴覚士としての力を身につけ、言語・聴覚・嚥下等に障がいのある人々の機能の回復・獲得をはかり、個々の状態に応じたコミュニケーション能力の向上と社会参加を支援できる専門職としての基礎的能力を習得している。

(1) 知識・理解

- ①言語聴覚士として言語聴覚学に基づいた知識・技術を理解することができる。
- ②言語聴覚士として必要な言語聴覚学の隣接学問に関する知識を理解することができる。

(2) 汎用的能力

- ①対象者とその背景の情報を分析し、対象者個人への支援とともに、対象者を支える社会の問題解決を論理的に行うことができる。
- ②言語聴覚学的支援の知識技術を再統合し、対象者を主体としたアプローチが実践できる。

(3) 態度・志向性

- ①幅広い教養と仏教精神による思いやりの心を持ち、言語聴覚学という専門性に基ついた高いコミュニケーション能力を習得できる。
- ②②言語、音声、聴覚、コミュニケーション、摂食・嚥下などに障がいのある人たちが、豊かで質の高い生活を送れるようにするため、障がいについての専門知識や訓練・指導を行うための専門性の高いスキルを習得できる。

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- ①言語聴覚士として、医療、介護、福祉、療育・教育の現場で言語聴覚士としての専門知識・スキルに基づいて、障がいを持つ人たちの多様なニーズに対応できる実践力を習得する身につけることができる。
- ②言語聴覚士は障がいを持つ人たちを全人的に治療していく必要があり、言語聴覚療法領域のみに留まらず、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、栄養士、臨床心理士、教師などとのチームワークが不可欠となる。そのため、チームの一員として、障がいのある人たちを支えるという実践力を身につけることができる。

こども教育学部 こども教育学科

1 アドミッションポリシー

本学科では、仏教精神による慈しみの心を以て子どもと向き合い、子どもを深く理解してその育ちを指導・支援できる教員・保育者を育成します。そのため、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる基礎的な知識・技能及び関心・意欲を備えた女性を求めています。このような入学者を適正に選抜するために、教科（国語、英語、数学）の試験、小論文、面接など多様な選抜方法を実施します。

1. 高等学校等までの学習を通じて、人文・社会・自然・芸術・体育に関わる基礎的知識や技能を幅広く身につけている。
2. 教員・保育者になるための勉学すなわち、教育・保育に関する理論的知識・実践的技能の獲得に強い意欲をもって努力できる。
3. 教員・保育者として自分を高めるために常に学び続けようとする意欲がある。
4. 他者と協働すること、リーダーシップをとること、さらには協力者となることの重要性を理解し、そのためにコミュニケーション力を高めることに関心と意欲がある。
5. 子どもが好きで、その成長に貢献することを強く希望し、教育・保育の仕事に使命感を以て臨むことができる。

2 カリキュラムポリシー

本学科の人材養成目標及びディプロマポリシーの達成のため、以下の方針に基づきカリキュラムを編成、実施する。

2.1 カリキュラムの編成方針

以下の4つに分けてカリキュラムを編成する。

(1) 建学の精神教育

- ・現代社会に生きる教員・保育者として思いやりの精神をもって子どもや保護者と関わり、社会貢献を志向する価値観や態度を身につけるために、「仏教の人間観」、「仏教教育論」および「京都光華の学び」を置く。

(2) 基礎・教養教育

- ・健全な市民性の涵養や日本文化への理解をはじめ、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目及び複数領域にわたり選択科目を置く。
- ・情報リテラシー、日本語活用力、英語による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ必修科目を置き、演習形式で授業を行う。

(3) 専門基礎教育

- ・子ども一人ひとりの発達段階や個性を理解し適切な支援をなすうるために、教育・保育や子どもの発達に関する基礎理論を学ぶための科目を置く。
- ・子どもの興味・関心をふまえた授業や保育を計画し実践できるよう、各教科や保育内容各領域の基礎を学ぶための科目を置く。

(4) 専門教育

- ・教員・保育者としてより主体的・創造的に教育・保育をなすよう、教育・保育の発展的な理論を学ぶための科目を置く。
- ・子どもの視野を広げ、活動を通じての学びを促進することができるよう、各教科や保育内容各領域の指導法を学ぶための科目を置く。
- ・現代的な教育・保育の諸課題に対応するための科目を置く。
- ・学習成果を統合し、問題解決に適用することを学ぶための科目を置く。
- ・教育・保育実習の準備や実施のための科目を置く。

2.2 カリキュラムの実施方針

以下の点に留意しつつ、カリキュラムを実施する。

- ・集団で協力しながら問題を発見し、解決する力を高めるために PBL(Project-based Learning) やアクティブ・ラーニングの授業方法を広く取り入れる。
- ・クラスアドバイザーを担当する教員は、定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認し、適切な履修指導を行う。
- ・教育・保育現場とのつながりの中で教育・保育理論の理解を深め、学習への動機を高めるよう、教育課程内においても、課外の活動においても、現場体験・子ども体験の機会を十分に提供するよう努める。
- ・理解度や習熟度の評価は、ディプロマポリシーが目指す諸能力の形成を促進するものとなりうるよう、学期末テストにとどまることなく、レポート、小テスト、実技テスト、作品提出、模擬授業や模擬保育などの中から科目により適切な評価方法を加えて複合的に行い、その結果を適宜学生にフィードバックする。

3 ディプロマポリシー

学校教育・保育に携わるに相応しい広い視野、柔軟で深い思考力、冷静で筋の通った判断力、更には子どもの成長に資する的確な指導力を身に付け、教員・保育者として主体的に行動できるようになったうえで、学則に定める卒業要件を満たした者に学位を授与する。

(1) 知識・理解

- ①教員・保育者に求められる教養が身に付いている。
- ②教員・保育者に必要な専門的知識や教育・保育技術が身に付いていて、今日的な課題（保育英語・小学校英語や ICT 機器の利用など）にも対応可能である。

(2) 汎用的能力

- ①育ちゆく幼い者への共感と温かな眼差しをもって子どもと向き合い、一人ひとりを大切にその育ちを支えることができるとともに、問題がある場合には素早く発見し、的確な解決を図ることができる。
- ②教員・保育者に必要なコミュニケーション能力を備えていて、子どもと子ども、子どもと教員、子どもと地域、更には保護者と保護者を結びつけることができる。

(3) 態度・志向性

- ①建学の精神である「真実心」を体得し、これを「思いやりの心」、「向上心」、「感謝の心」として教育実践・保育実践に活かすことができる。
- ②教職・保育職に対する責任感と情熱をもち、自らも生涯学び続け、成長し続けようという意欲をもっている。

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- ①教員・保育者としての教養と専門知識・技術を身に付けていて、これらを一人ひとりの子どもの育ちと学びの支援・指導に統合的に活用できる。
- ②教育・保育上の一つひとつの問題や課題を子どもや自分自身の成長の機会と捉え、主体的・創造的に解決を図ることができる。